

栄光から栄光へ; ヨハネからイエスのミニストリーへ ヨハネによる福音書 1:35-51

1. その翌日、またヨハネは、ふたりの弟子とともに立っていたが、イエスが歩いて行かれるのを見て、「見よ、神の子羊」と言った。ふたりの弟子は、彼がそう言うのを聞いて、イエスについて行った。(1:35-37)
 - a. この箇所から、バプテスマのヨハネには多くの弟子がいたことがうかがえる。その中にはアンデレ（ペテロの兄弟）とこの福音書の著者ヨハネを含む中心人物の輪があったと思われる。バプテスマのヨハネが最も愛していたであろうこの2人はイエスについていくためヨハネから離れていくことになる。
 - b. バプテスマのヨハネはこれが人々を整えるためであることを理解していた。彼は最も優秀な弟子たちを引き留めようとはしなかった。時として、リーダーや何かにおいて優れている人はその役目から降りて次の人にバトンを渡すのが難しい時があるが、ヨハネはそれを行なった。
 - c. バプテスマのヨハネの弟子であったヨハネとアンデレもそこを離れるのがつらかったに違いない。彼らは忠実に仕えていた中心人物だったはずである。しかし彼らは快適地帯から抜けて神様がなさる新しいわざのために踏み出していった。
2. 彼はまず自分の兄弟シモンを見つけて、「私たちはメシヤ（訳して言えば、キリスト）に会った」と言った。(1:41)
 - a. イエスとともに一日を過ごした後、アンデレとヨハネはイエスが教師以上の方、メシヤ（39節）であると確信した。
 - b. この2人は神様の計画とイエスの偉大さを理解した最初の人物であった。アンデレとヨハネがメシヤを見つけることができたのは恵みによるが、「求める」という言葉から彼ら自身もメシヤを探し求めていたことがわかる。彼らは求め続けていたので神様のすばらしい計画に加わることができたのである。
 - c. 神様の計画に対する彼らの飢え渴きは伝染するものであった。メシヤを見つけた後彼らは出て行き他の人々にイエスのことを証ししていった。
3. 彼（ピリポ）はナタナエルを見つけて言った。「私たちは、モーセが律法の中に書き、預言者たちも書いている方に会いました。ナザレの人で、ヨセフの子イエスです。」(1:45)
 - a. 喜びと共に疑いも出てきた。これら最初の弟子たちはただ人から聞いてむやみにイエスに従ったのではなく、自分自身で確かな出会いを経験したうえでついて行った。イエスは最初の弟子たちに「来て、そして、見なさい」と言われたが、これはピリポがナタナエルに対してイエスに会いに行くように勧めた時の言葉と同じである。
 - b. この第1章に記録されているナタナエルとイエスの出会いはおそらく最も超自然的なものだと言えるだろう。彼は間違いなく最も疑い深い人物であった。イエスはナタナエルの心の奥にご自身を明らかにされることによって彼の疑惑を晴らした。この出会いによって彼の皮肉めいた行動は信仰告白へと導かれた。
4. イエスは答えて言われた。「あなたがいちじくの木の下にいるのを見た、とわたしが言ったので、あなたは信じるのですか。あなたは、それよりもさらに大きなことを見ることになります。」そして言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。天が開けて、神の御使いたちが人の子の上を上り下りするのを、あなたがたはいまに見ます。」(1:50-51)
 - a. イエスは人の心のうちを明らかにする預言者以上のお方である。イエスはそれよりも大きなものを見せてくださる。これらのことは弟子がその師から学んでいくことである。
 - b. 私たちはイエスがどのようなお方であるかという別の啓示を与えられている。彼は世の罪を取り除く神の子羊であるだけでなく、人の子であり、またヤコブのはしごであるということを示しておられる。
 - c. イエスはその弟子たちにさらにすばらしい、大きなものを見ることになる、と約束しておられる。